



日本で初めて木造天守閣を復元

## 掛川城天守閣

大名の暮らしを偲ばせる城郭御殿

## 掛川城御殿

# 掛川城天守閣



見性院肖像画



山内一豊肖像画(財)土佐山内家至物資料館蔵

### 掛川城歴代城主

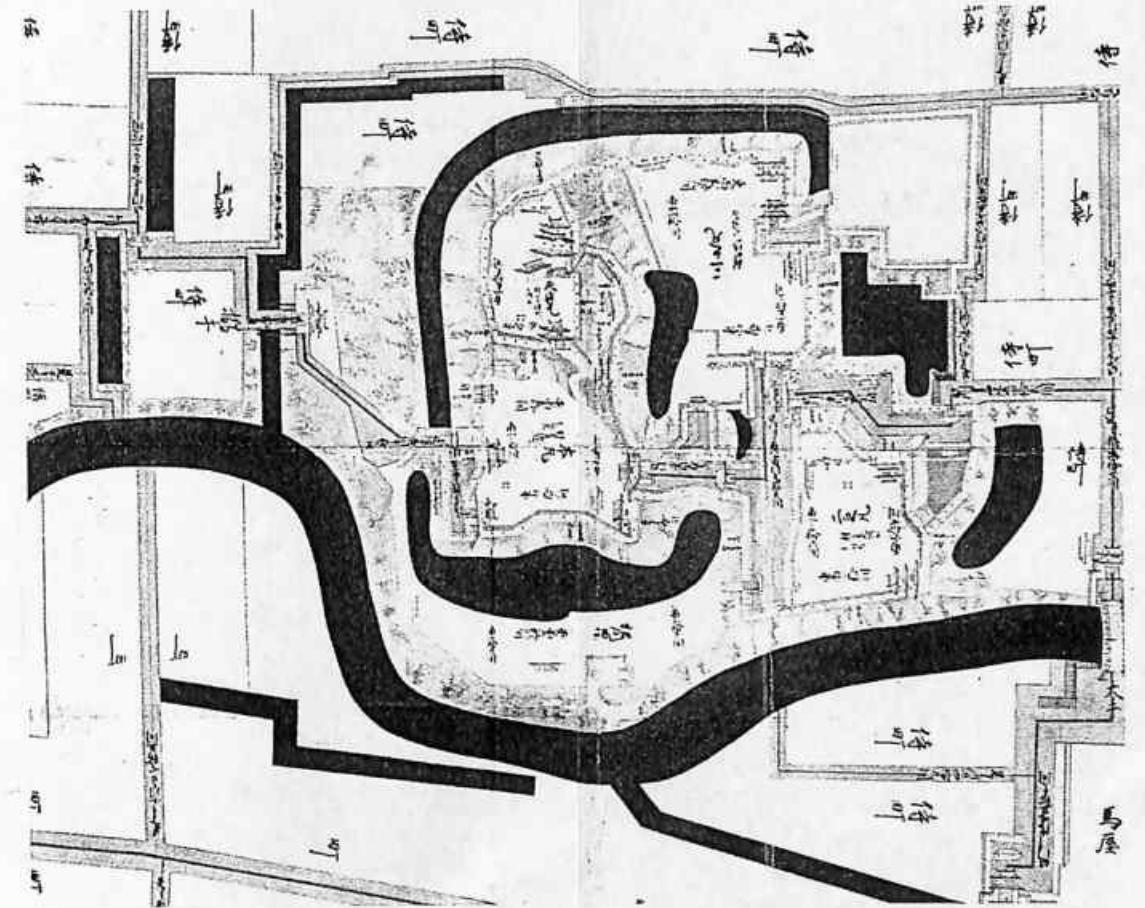
(寛政重修諸家譜)により作成

城主名	球高	入城年	西暦	在城年数	損喪
朝比奈泰康(やすひる)		文明初年			今川貞忠の命により築城
同 泰隆(やすよし)		永正10年	1513	45	
同 泰朝(やすとも)		弘治3年	1557	12	今川氏貞と共に小田原へ転進
石川家成(いえなり)		永禄12年	1569	11	
同 康通(やすみち)		天正8年	1580	10	
山内一豊(かつとよ)	5万石	天正18年	1590	10	関ヶ原役の功賞により土佐高知へ転封

### 中略

井伊直好(なおよし)	3.5万石	万治2年	1659	13	
同 直武(なおたけ)	3.5万石	寛文12年	1672	22	
同 直朝(なおとも)	3.5万石	元禄7年	1694	11	見任、親子直朝襲封
同 直輝(なおのり)		宝永2年	1705	0	
松平(徳井)忠高(ただたか)	4万石	宝永3年	1706	5	
小笠原長茂(ながむら)	6万石	正徳元年	1711	28	
同 長庸(ながつね)	6万石	元文4年	1739	5	
同 長景(ながかげ)	6万石	延享元年	1744	2	幼少及び積政不備により転封
太田資俊(すけとし)	5万石	延享3年	1746	17	寺社奉行
同 資英(すけちか)	5万石	宝暦13年	1763	42	寺社奉行、若年寄、京都所司代、老
同 資源(すけのぶ)	5万石	文化2年	1805	3	
同 資忠(すけとむ)	5万石	文化5年	1808	2	
同 資治(すけちと)	5万石	文化7年	1810	31	難子、堀田正毅3男、老中
同 資功(すけかつ)	5万石	天保12年	1841	21	寺社奉行
同 資美(すけよし)	5万石	文久2年	1862	6	明治2年、上総国芝山に移る

# 正保城絵図と掛川城



掛川城の最も重要な正保元(1644)状況を把握を命じまし、もので、63正保城絵図守丸と本丸尾池などの之丸などの郭を垣が囲され、また部が厳重に正保城絵十露盤堀な備に活かさ、城の南側逆川の南側ついでに東海道が、代大名道に面する宿泊所とし、徳川家康陣に際し、います。毎年の上洛の第3代將軍の時に掛川家茂は、慶向かう途中

# 掛川城御殿



掛川城二の丸御殿内部(創建当時)



■概要  
木造瓦葺平屋  
外 部/下見板張り  
漆喰真壁  
内 部/諸役所中塗  
御書院黄色壁塗  
小書院白漆喰塗  
総床面積/947㎡(287坪)  
創建当時1,091㎡(330坪)



御書院上の間 床の間と脇間 御書院は城主の対面所で、上の間はその主室にあたる。壁を入れ敷を敷いた床の間と、脇には違い障が掛けられている。右手には符書院を隔した障子窓がある。

## 掛川城御殿の構造

掛川城御殿は、7棟よりなる書院造で、部屋はそれぞれの用途に応じ約20部屋に分かれています。最も重要な対面儀式が行われる書院棟は、主室の御書院上の間と、謁見者の控える次の間・三の間から成ります。藩主の公邸の小書院棟は、藩主の執務室である小書院と、藩主の居間として使われた長間が裏の間から成ります。東側は藩政をつかさどる諸役所の建物で、目付・奉行などの役職の部屋、警護の詰所、帳簿付けの間、書類の倉庫である御文庫などがあります。小書院棟の北側には、勝手台所がありました。が、明治時代に撤去されてしまいました。江戸時代には身分によって入口が異なっており、藩主や家老は式台玄関から、その他の武士は玄関東側から、足輕は北側の土間から入りました。

カバーは上げさこの  
パンフレットは現地  
いじります



# 「城を歩く会」11月バス研修会「東海地方の3名城を探る」

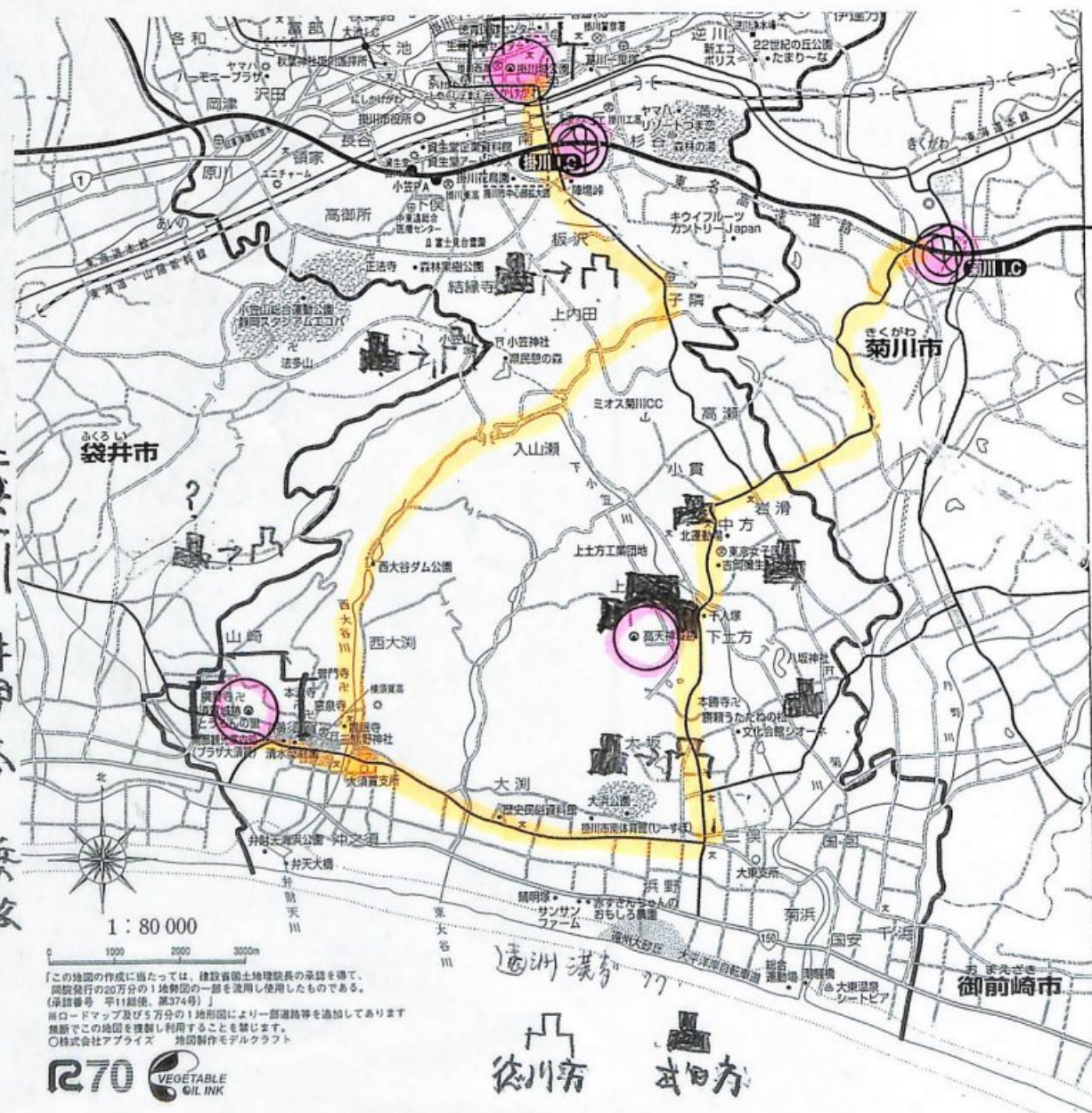
大河ドラマ「女城主直虎」井伊家ゆかり地を歩く

## 高天神城を制する者は遠州を制する

### ～今川・武田・徳川の攻防「東海一の決戦城」に行く

本日の主要行程（天候や進行状況などで変更することがあります）

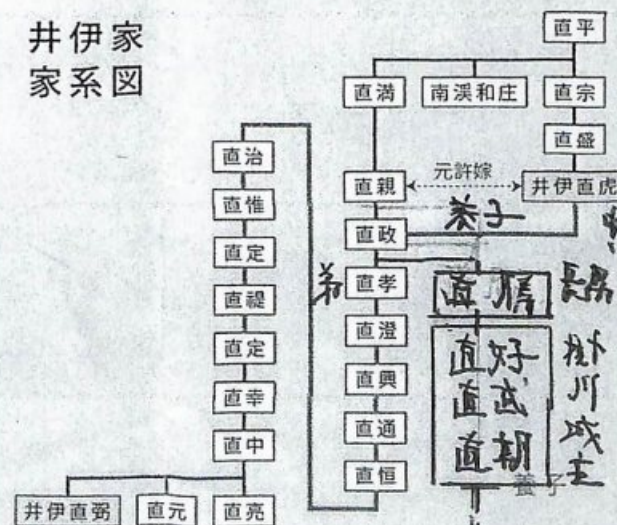
- 8時00分 田町駅前スタート、東名自動車道
- 11時30分～13時00分 掛川城（今川氏真が最後にこもった遠江の拠点城）  
車中昼食
- 13時30分～14時15分 遠州横須賀城（家康が高天神城攻略のために築いた拠点城）
- 14時45分～16時00分 高天神城（今川、武田、徳川争奪の山城）
- 20時00分 田町駅着、解散



田町駅前  
スタート  
着

大井川

井伊家  
家系図



大河ドラマ  
女城主直虎

南溪=小林薫  
千景=浅野真央  
直盛=杉本哲太  
直親=三浦春馬  
直虎=柴咲コウ

井伊直政  
直元  
直亮

直治  
直惟  
直定  
直禎  
直孝  
直澄  
直興  
直通  
直恒

直宗  
直盛  
直親  
直好  
直武  
直朝

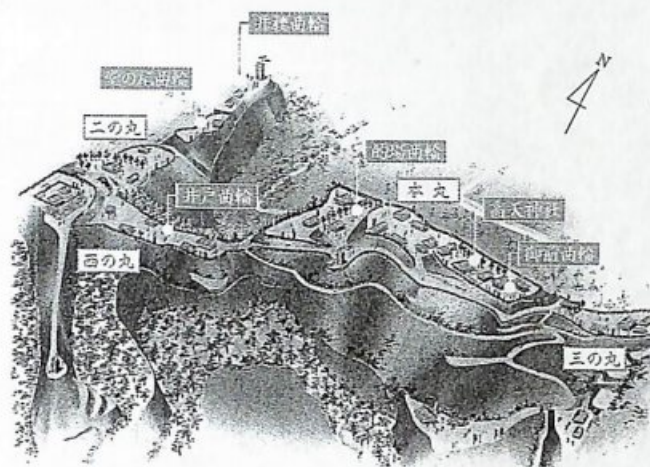
元許嫁  
養子  
孫

井伊直虎  
惣領家

詩詠

直親=三浦春馬  
養子

直虎=柴咲コウ



高天神城当時の想像図



毎年3月に行なわれる例大祭は、多くの見物客で賑わいます。



徳川家康、武田信玄、勝頼が攻防を繰り返した高天神城跡

「難攻不落の名城」と呼ばれた戦国の「ロマン」を語る。

高天神城は、小笠山から南東にのびる尾根の先端、標高二三二mの鶴翁山を中心に造られた山城です。東側の田園地帯から南側の遠州灘まで見渡すことができ、小笠山の北を通る東海道を牽制できる立地条件にある重要な城であったため、徳川と武田が争奪戦を繰り返してきました。

眼下には、下小笠川などの中小の河川が流れ、天然の堀を成し、尾根は三方が断崖絶壁、一方が尾根続きという天然の要害であり、「難攻不落の名城」と呼ばれていました。

高天神城の築城は、室町時代、今川氏が守護大名から戦国大名に成長する過程で築かれたとする説が有力であると言われています。

今川氏の滅亡後、徳川家康の持ち城となり、小笠原長忠が引き続き城主となりました。

一五七一年（元龜二年）、武田信玄では攻め落とせず、五七四年（天正二年）、信玄の息子勝頼が二万の大軍で攻めついに開城させました。しかし、翌天正三年の長篠の合戦で、織田徳川連合軍に大敗した武田勝頼は、その後、衰退。横須賀城を拠点とした家康が高天神城の奪還に成功しました。



# 高天神城跡

遠州を制する」と謳われた要衝の城  
国指定史跡



## 山内一豊が大改修した「戦国のロマン」の名城～掛川城

### 1) 今川氏真最後の拠点城～掛川城の歴史

- ①室町時代中期の文明年間(1469-1487)、駿河国守護職であった今川氏親が遠江攻略の拠点として重臣・朝比奈泰熙に命じて築城、当初の城は掛川城の北東丘陵で「掛川古城」と呼ばれている。
- ②朝比奈氏2代泰能の永正年間(1512ころ)、城を300m離れた現在地に移す。今川氏の勢力拡大にともなう城整備で、以後断続的に拡張工事が行われた。
- ③永禄3年(1560)今川義元が、織田信長との「桶狭間の戦い」で倒れると形勢は一転し、その所領は徐々に侵食されていく。東から武田信玄、西からはかつて今川氏に人質とされた徳川家康が独立して敵対していた。
- ④永禄11年、信玄と家康は同盟して今川氏真を攻めると氏真は本拠地の駿府館を捨てて、朝比奈3代泰朝のいる掛川城に逃れた。掛川城は家康が包囲し泰朝もよく持ちこたえたが、籠城6か月、氏真の無事を条件に開城を決意した。氏真と泰朝は後北条氏を頼って小田原城に退去し、掛川城は家康の手に落ちた。
- ⑤永禄12年、まもなく駿河に入った信玄と家康が手切れとなり、高天神城が激しい攻防の舞台となる。掛川城は豊臣秀吉の「小田原征伐」まで家康が抑えたが、小田原城の落城で関東移封を命じられた。
- ⑥天正18年代わって山内一豊が5万石で入城、「総構え城下」を整備するとともに、掛川城を「中世山城」から織豊期「近世城郭」へと変貌させた。一豊は長浜、安土、伏見城築城にも加わり、各地を従軍した知識を生かして実戦的な城造りを進める。天守の石垣構築、各曲輪の整備と拡張、櫓、城門、塀の瓦葺き、礎石建造物の建設などに及んだ。一豊は「関ヶ原の戦い」で東軍に与し、西上する家康に掛川城献上を申し出た話は有名で、戦後土佐24万石に栄進した。
- ⑦江戸時代は中小譜代大名が目まぐるしく変遷し、最後、太田氏5万石で明治維新となった。
- ⑧幕末の「安政大地震」で天守を含む大半の建物が倒壊、藩主居館「2の丸御殿」は文久元年に再建されたが、江戸時代に天守の再建はなかった。現在の天守は平成6年、日本最初の「木造天守」として復元された。今川～徳川に

### 2) 東海道新幹線に正対する山内一豊の望楼型天守

- ①城の南側の逆川に向かって張り出した丘陵先端を大規模に造成した平山城。その最高所に本丸と天守曲輪を配し、2の丸、3の丸を繋ぐ。南側逆川の流れを外堀に、総堀を囲み、本丸虎口は三日月堀、松尾池、そろばん堀で守られた城内最大の防御空間を築いた。
- ②天守は望楼型3重4階、東海道新幹線から望む。絵図や発掘調査、山内一豊の転封先である高知城を参考に、鉄筋コンクリートを基礎とし、その外側に石垣を積んだ天守台の上に木造復元天守が上がっている。

### 3) 大手門→2の丸御殿→天守～現地は地元ボランティアさんにご案内していただきます

- ①担当の保科講師は近親者急逝のため参加できなくなりました。  
急遽「地元ボランティアさん」にご案内をお願いしました  
見学資料＝「掛川城御殿、掛川城天守閣」(掛川城管理事務所)
- ②東京から掛川インターまで「東名高速」利用。所要時間はおよそ2時間40分(掛川市観光ガイドブック)インターから大手門駐車場まで5分、11時30分ころ掛川城到着予定
- ③大手門＝渡り櫓門の復元。元位置は道路で50m程移動して立つ
- ④2の丸御殿＝文久元年建造の国重要文化財。全国でも二条城、川越城、高知城しか現存しない
- ⑤太鼓門＝大太鼓を納め刻を知らせた。数少ない現存建造物の移築
- ⑥本丸御殿跡＝本丸跡には元御殿があり、將軍御成り御殿と考えられる
- ⑦霧吹き井戸＝天守丸の井戸。井戸から霧が噴き出して城を守ったという伝説がある
- ⑧天守＝天守台上に望楼型3重4階天守。嘉永7年地震で崩壊、平成6年に復元された

## 川原石で築いた「織豊系石垣の城」～遠州横須賀城

### 1) 高天神城攻略の家康拠点城

- ①天正6年(1578)徳川家康が武田勝頼によって攻め落とされた高天神城を奪還するため大須賀康高に命じて築かせた前線基地。
- ②天正9年家康はこの城を拠点に高天神城を攻略した。康高は以後、城下町造りのため治水、港湾整備などを務めた。
- ③天正18年家康が関東に移封になると豊臣秀吉は榊原康政の子で康高の養子となった大須賀忠政を久留里城に移し、豊臣譜代の渡瀬、有馬氏を配した。
- ④慶長5年「関ヶ原の合戦」で江戸幕府が成立すると家康は再び大須賀氏を戻し、以後、能見松平、井上、本多氏と続いて西尾氏2万石で明治維新となった。

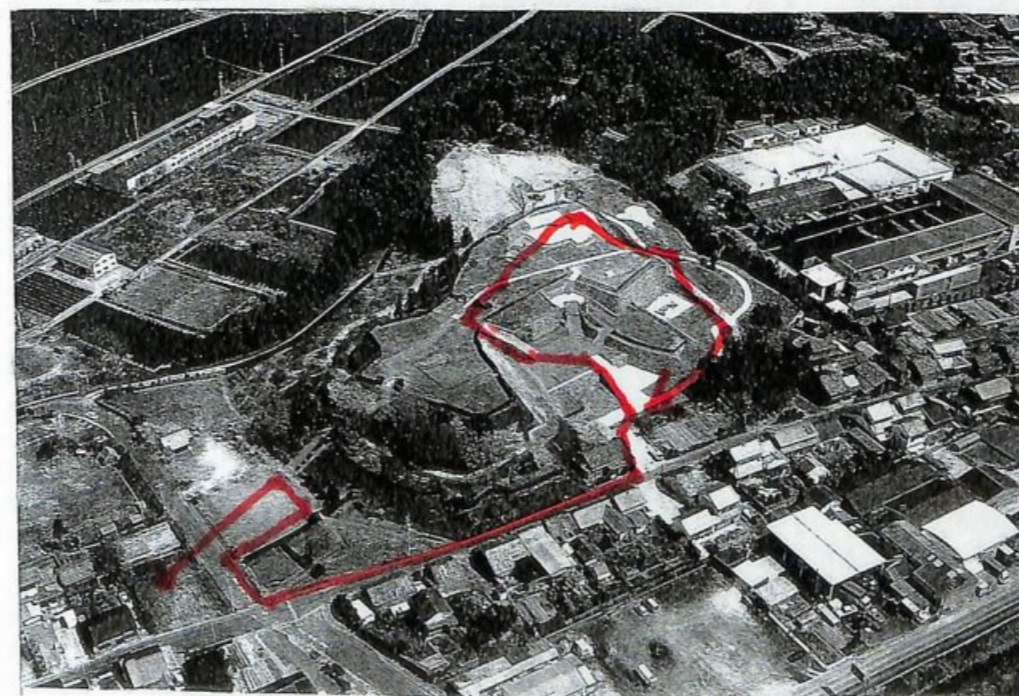
### 2) 遠州灘に面した玉石垣の「海城」

- ①城は遠州灘の入り江に沿った低い丘陵先端部に立地、浜筋道と海上交通の押えとしての役割を持つ。縄張りには平山城、横一直線の連結式で水濠を回し、3重4階の望楼型天守を上げた。
- ②近年発掘調査が実施され、当時の姿を再現した丸い川原石を使った玉石垣が復元された。また出土瓦から石垣山一夜城や浜松城と同じ職人の作りであることが証明された。
- ③近くの撰要寺は家康が高天神城攻めで横須賀城築城前に本陣とした。山門は横須賀城あかすの門の現存移築で、境内に大須賀氏2代の大きな宝篋印塔(墓)がある。

### 3) 遠州横須賀城を歩く

- ①城内元2の丸の横須賀城駐車場に降車
- ②掛川市の大看板「遠州横須賀城図」で案内コースを確認

(史跡看板)横須賀城の歴史＝横須賀城は戦国時代末期、天正6年から8年にかけて、徳川家康の家臣大須賀康高によって築かれた城であり、当初は約6km東に存在する武田方の高天神城を攻めるための軍事拠点として使用されました。天正9年に高天神城が落城すると、江戸時代にかけて城は近隣支配の拠点となりました。(城主は8家20代)明治2年の廃城後は、城に関する土地や建物等が民間に払い下げられ、横須賀城はその姿を消しましたが、昭和56年国の史跡に指定されています。横須賀城の特徴は中世城郭と近世城郭の2つの構造を持つ平山城であること、宝永地震までは城内に船着き場があったこと、川原石だけの石垣がみられることなどが上げられます。



上空からみた横須賀城



↑本丸跡型 ↓玉石石垣







西の丸西斜面の石段と門跡出土状況

遠州制覇に夢をかけた徳川家康と武田信玄・勝頼。横須賀城は、山城と平城を合わせた、平山城と呼ばれ、近世の政治の場としての面もあることから、二重の城郭要素を持つと言われている。横須賀城を築くきっかけは、徳川勢が守る高天神城への武田氏の襲撃でした。一五七二年(元龜二年)武田信玄は家康の家臣となつた小笠原長忠が守る高天神城を攻撃しましたが、攻めきることができず兵を引き三河へ進軍していきました。これにより信玄も攻め落とせなかつた難攻不落の城と言われるようになりました。しかし、この戦いから三年後、父信玄の遺志を受け継いだ勝頼が高天神城を攻め、開城させました。一方、高天神城を失った家康は、一五七八年(天正六年)高天神城を奪還すべく、大須賀康高に命じて、横須賀城を築かせました。家康は、横須賀城を拠点とし、一五八一年(天正九年)、勝頼に奪われた高天神城を攻め、落城させました。この合戦で、初代城主となつた大須賀康高を初め、その配下の者も大いに武功を挙げ、「横須賀党」と呼ばれたそうです。

# 横須賀城跡

遺き想いを夢みて築き上げた

新しい平山城

国指定史跡

遠州制覇に夢をかけた徳川家康と武田信玄・勝頼。

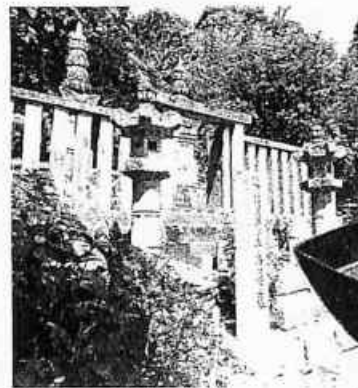
横須賀城は、山城と平城を合わせた、平山城と呼ばれ、近世の政治の場としての面もあることから、二重の城郭要素を持つと言われている。

横須賀城を築くきっかけは、徳川勢が守る高天神城への武田氏の襲撃でした。

横須賀城は、築城者大須賀康高が初代城主となりました。一五九〇年(天正十八年)の家康の関東移封に伴い、翌年、二代城主の大須賀忠政は上総国に移され、豊臣氏の家臣である渡瀬氏、有馬氏が城主になりました。一六〇二年(慶長六年)、松平(大須賀)忠政が再び城主になり、以後譜代大名の居城になりました。江戸中期から一八六八年(明治元年)まで西尾氏八代の支配が続きました。

## 横須賀城の歴史

1513年(永正10年)	これより以前、今川氏家臣が城に入る。
1568年(永禄11年)	徳川家康、今川氏真の領国遠江国に侵攻し、高天神城を属城とする。
1571年(元龜2年)	武田信玄、塩買坂に布陣し、内藤昌豊が高天神城を攻めさせるが失敗に終わる。
1572年(元龜3年)	徳川家康、三方ヶ原の戦いで武田信玄に大敗する。
1573年(天正元年)	信玄没す。
1574年(天正2年)	武田勝頼、小笠原長忠が守る高天神城を開城させる。
1575年(天正3年)	勝頼、長篠の戦いで織田信長・徳川家康連合軍に大敗する。
1578年(天正6年)	家康、高天神城奪還の拠点として、横須賀城を築く。
1581年(天正9年)	家康、高天神城を落城させ、廃城にする。
1591年(天正19年)	豊臣氏の家来、渡瀬氏が横須賀城主になる。
1682年(天和2年)	西尾忠成、借瀨小諸城主から横須賀城主となり、以後西尾氏の支配となる。
1854年(安政元年)	安政東海地震により、横須賀城と城下町が大被害を受け、天守閣も傾く。
1868年(明治元年)	西尾氏は千葉に移され、横須賀藩の領地は静岡に移された徳川家の支配となる。
1873年(明治6年)	横須賀城の建物など、解体され払い下げとなる。



横須賀城の初代と2代目城主大須賀氏の墓があります。



徳川家康(「三河武士のやかた 家康館」蔵)

← 天守跡



→ 三日月堀



主計部 櫓内跡

### ③西の丸下斜面の石段

(史跡看板) 遺構復元について=遺構は砂などで埋め戻し地中に保存しています。この埋土の上に現在みられる復元遺構がつけられています。つまり現在みられる石の真下に写真に写っているような当時の石がそのままの状態に保存されています。本物の石は地元産の砂岩質の川原石です。

この遺構はふだん城主などが住む2の丸(現在西館幼稚園)方面から西の丸台地へ上がる時に通る登り口跡です

④城の正面はかつて海=富士山の「宝永大噴火」で海面が隆起したため海は1kmほど後退、船着き場が使えなくなった。

⑤虎口は城両端に東大手門、西大手門が置かれたが、市街化のため消滅、見学コースは本丸下要害、櫓門前から本丸と天守台をめざす。

⑥圧倒する石垣群が一二三段を形成してみえる。近づいて石材と石積みを観察。石は天竜川から運んだ丸い川原石。源流から転がり流される過程で角がとれて丸くなるのだという。何万年にもわたる自然が作り出した芸術品ともいえる。石垣を含む現在の縄張りは秀吉時代の渡瀬、有馬氏と見られる。角石の確保が困難な中、あえて「織豊期石垣」に挑んだ子飼いだ名の強い意思が窺える。丸石を野ヅラに積み上げるのは簡単ではない。現存ではないが、コーナーの「算木組」やかい石、中込め石などに注目したい。

⑦ゆるやかな登り坂石段。登り切った虎口は「渡り櫓門」で本丸の正門。両脇石垣上に白壁板塀を廻した四方を石垣で囲んだ空間は大型の枡形であろうか。

⑧西の丸=城主の隠居所をいう。

⑨本丸=城の中心。城主と家族が居住した。

⑩天守=発掘調査で礎石と縁石が出土、旧位置に表示している。望楼型3重4階。天守裏は急ガケになっている。

⑪本丸から3の丸への下り坂に城内最大の高石垣、石垣に囲まれた平坦部に玉砂利石遺構、さらには下がる三日月堀がある。

⑫天守台東下平坦面

(史跡看板) この区域は天守台北側の北の丸から本丸南側区域へ続く通路のような細長い部分で、また北の丸との境界付近に井戸が示された絵図もあります

⑬3の丸、東大手門を遠望。北の丸を迂回して駐車場に戻る。



横須賀城地研

↑横須賀城絵図 ↓復元模型 ↓北の丸



樫栗寺



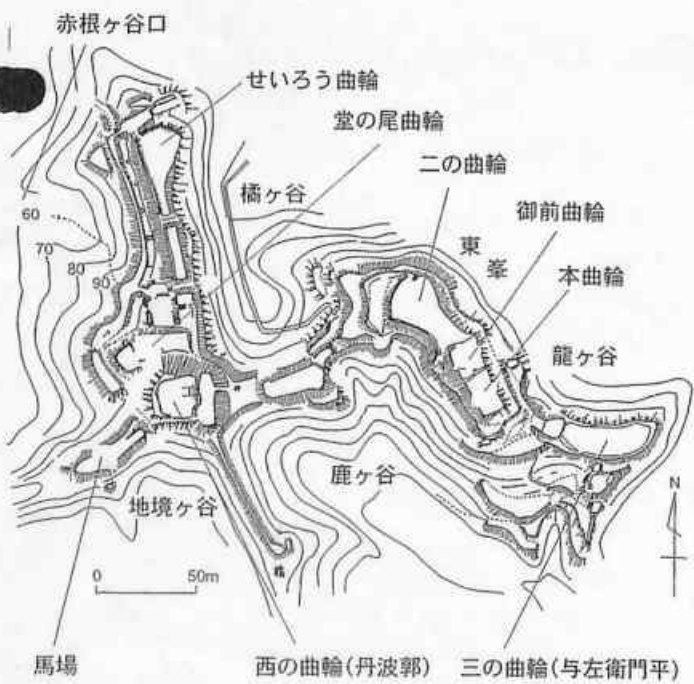
# 遠州制覇をかけた戦いの跡～高天神城

## 1) 家康と信玄・勝頼が10年間に3度も戦った決戦場～城の歴史

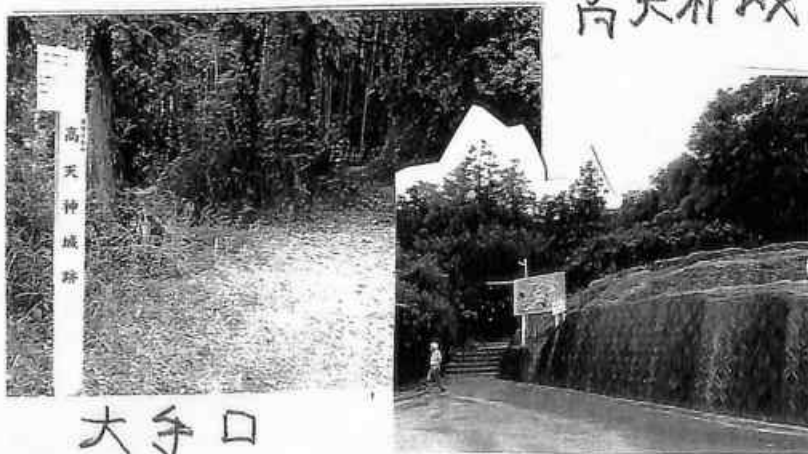
- ① 往古、相良から掛川をへて信州に至る「本街道」と、横須賀に通じる「浜街道」が交差する交通要衝に立地する。通説は応永23年(1416)九州探題の今川了俊が駿河と遠江半国守護になったときの築城だが、むしろ今川氏親時代とする考えが強い。氏親は伊勢宗瑞(北条早雲)をもって遠江に侵攻して今川の領国とした。
- ② 永禄11年(1568)武田信玄に駿府を追われた氏親は掛川城に逃れたが、高天神城にあった小笠原氏興は今川氏から離反して家康に属した。
- ③ 元亀2年(1571)信玄は総勢2万の大軍で遠江に攻め込んだが、小笠原長忠は高天神城に籠城して城を死守する。高天神城は「信玄をもってしても攻め落せない難攻不落の城」として全国にその名を高めた。
- ④ 天正元年(1574)今度は信玄の子勝頼が来攻、長忠は2千の兵で立てこもるが兵糧、弾薬が尽き、家康の援軍もなく2か月の籠城で降伏、武田氏の城となる
- ⑤ しかし同3年勝頼が「長篠の戦い」で織田信長、徳川家康の連合軍に大敗し、遠江国内の徳川勢力が拡大すると、家康は高天神城奪還のための行動を開始する。前進基地として横須賀城を築き、さらに高天神城の周囲に6つの砦を構築、また奪取して完全包囲した。
- ⑥ 「もはやこれまで」と覚悟を決めた城番岡部長教以下城兵800人は城から打って出て、激しい戦いの後玉砕した。高天神城は家康が焼き払い廃城とした。以後高天神城の「陣城」であった横須賀城がこの地の政治的中心として明治に続いた。
- ⑦ 城地は江戸時代「忌み城」となり、その遺構はほぼ完全に保存された。
- ⑧ 昭和50年「主郭部が遺存し、中世山城としての遺構に秀でたものがある」として「国指定史跡」となった。

## 2) 尾根と谷地を巧みに利用した「難攻不落」の城

- ① 遠州灘に近い、牧の原台地と小笠山稜に挟まれた独立丘陵に立地、標高132m、比高



高天神城



大手口

100mの鶴翁山を中心に放射状に伸びる尾根と谷地を巧みに利用した山城。東峯と西峯の2つの城から成る。城山は四方を急ガケに囲まれ、攻め手は谷地を分け入ったゆるやかな斜面を登るしかない。守る側にとってはゆっくり引きつけて、両側斜面上から強烈な横矢を浴びせることができる。まさに「難攻不落」の名城であった。

## 3) 手ごわいぞ。比高100mの山城～元気組で高天神城を歩く

- ① お断り=高天神城は「ハイキングコース」になっているが、比高100mの山城で、高齢者の多い当会メンバーにとってははてごわい。天候と進行状況により大手門、からめ手門付近の散策にとどめることがあります。また体力に自信のない方はバスに残留も可能です。
- ② 大手口駐車場で降車。元気組は3の丸、本丸をへてからめ手口駐車場で、回送したバスに乗車する。行程山道、急斜面、階段あり、およそ70分。
- ③ 大手口(獅子谷口)=高天神城の正面玄関。駐車場の小テラスが大手馬出し跡と考えられている。

### 高天神城史跡看板=

(史跡看板) 高天神城跡略図。高天神城攻防砦図。鶴翁高天神城略年表

(史跡看板) 高天神城想像図=高天神城は室町時代、駿府の今川氏から遠江侵攻の拠点として築いたとされ、戦国時代には駿河、遠江をめぐる武田氏、徳川氏の激しい攻防の舞台となりました。元亀2年には、武田信玄が徳川方となった高天神城を攻めており、このときには大規模な戦闘は行われませんでした。天正2年5月には、信玄の息子勝頼が当城に攻め寄せ、徳川方の城主小笠原与八郎長史は1か月ほどの籠城と激しい戦闘の末、開城し武田方に降っています。その後、武田方となった高天神城は徳川家康の攻撃をたびたび受けることとなります。天正3年5月の「長篠の戦い」以降、勢力が衰えた武田氏は当城を支えきれず、天正9年3月22日、ついに落城しました。高天神城はその後すぐに廃城となり、現在に至っています。

(史跡看板) 高天神城と井伊直政=徳川家康と武田信玄、勝頼親子が攻防を繰り返した高天神城、(中略)天正8年から始まった第2次高天神城の戦いへ徳川の武将として井伊直政が参戦したといわれています。具体的な武功として徳川家康の寝こみを襲うため武田勝頼が送り込んだ刺客を討ち取ったと



本丸跡



高天神城 砦



天神社



本丸からの東峯



からめ手口↑→







明本 ↓ 次回  
3/13 ↓  
鎌倉 稲村ヶ崎



当面のスケジュール (詳細は「会報号外」を参照ください)

- 1 2月定例会 休会
- 1月新年会 (17日=水曜日) 銀座・ライオン
- 2月研修会 (抽選待ち) 春季研修会
- 3月研修会 (13日=火曜日) 稲村ヶ崎と極楽寺坂切通し
- 4月定例会 (11日=水曜日) 千葉城と家康茶屋御殿、国指定史跡決定の加曾利貝塚

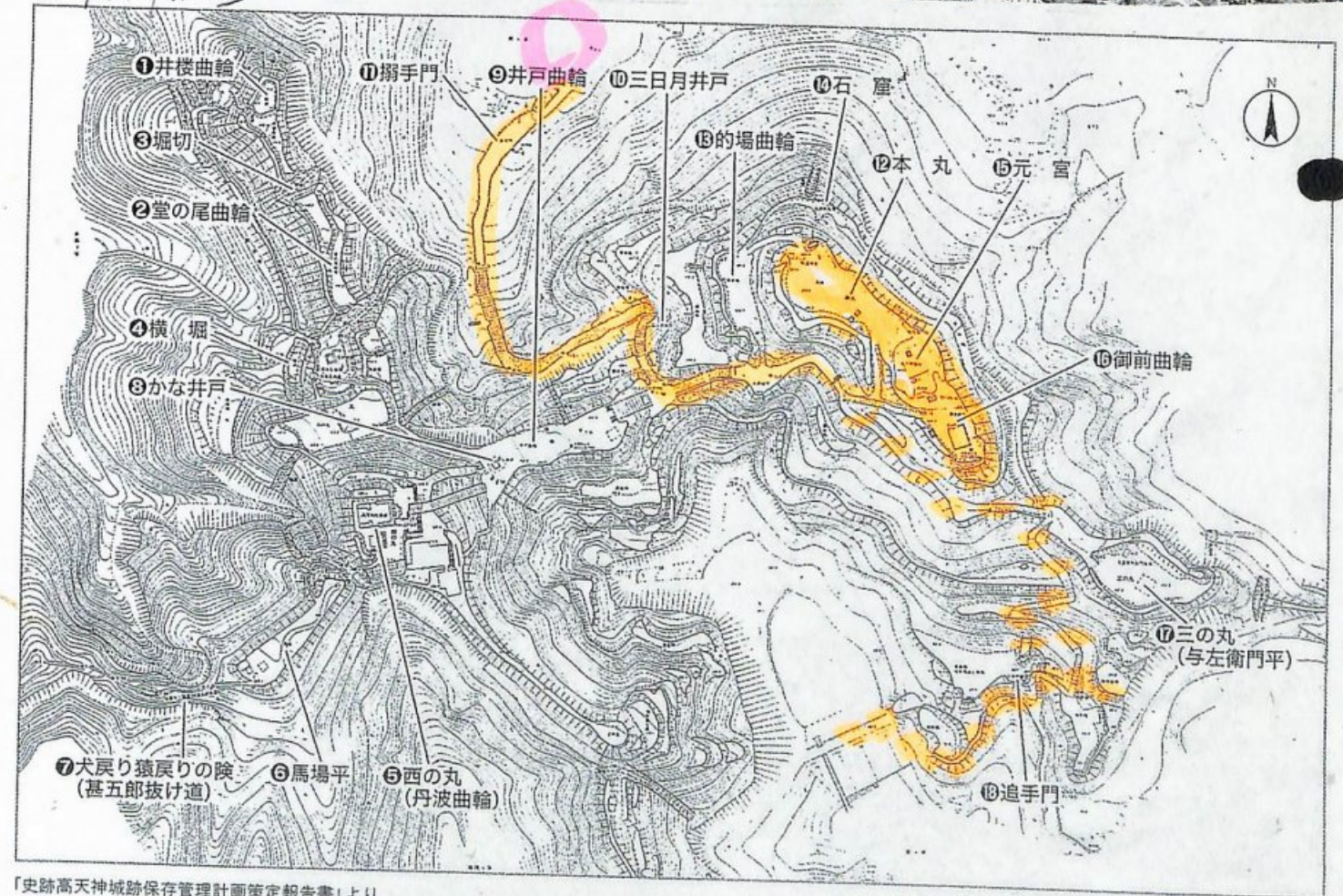
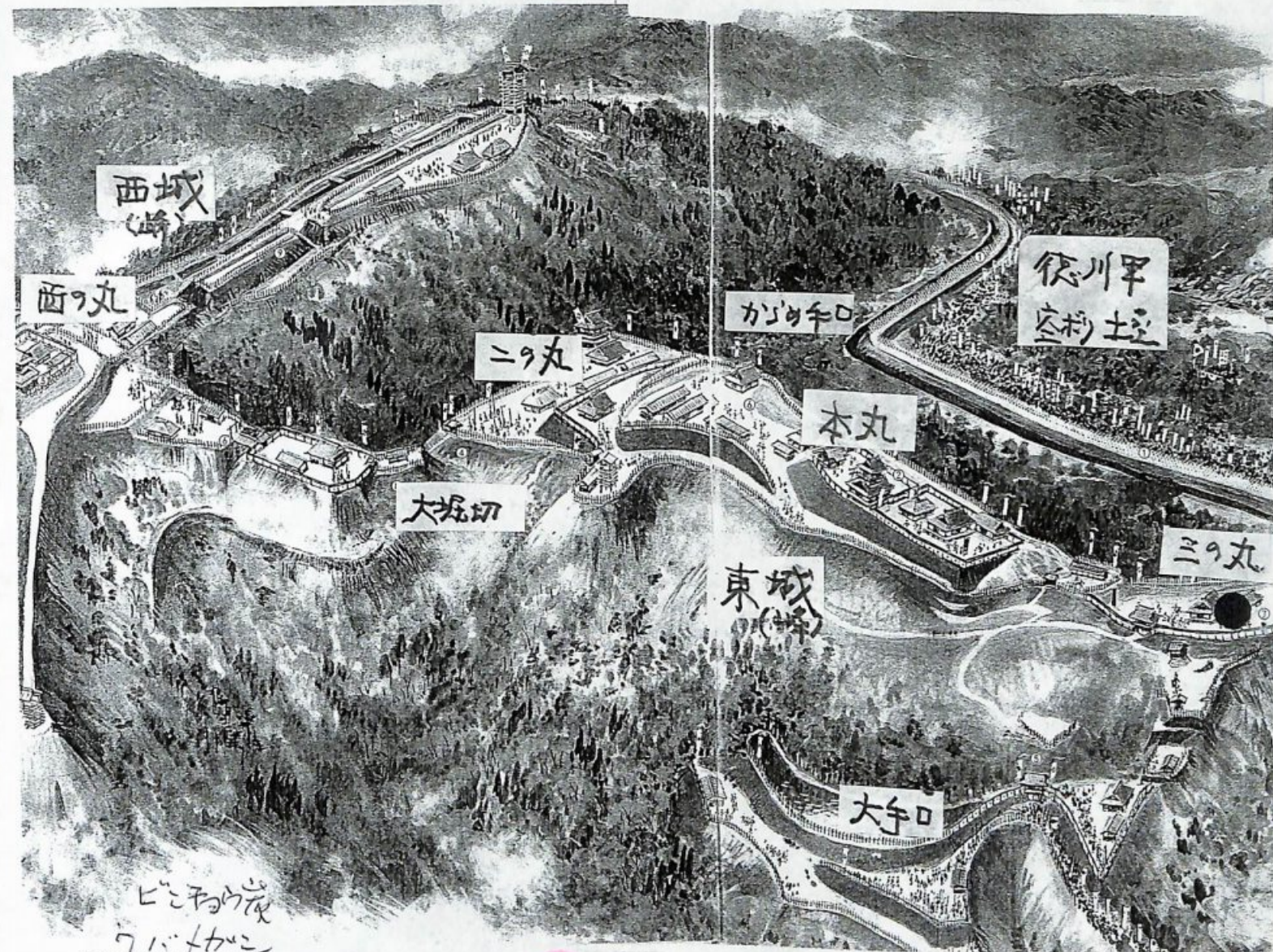
いう武功や武田方への水の補給路を断つことによる日乾し作戦で功績を上げたとされています

- ④伝追手 (大手) 門跡
- ⑤城攻め開始。尾根道、そして登り坂。右上、3の丸から横矢
- ⑥3の丸 (与左衛門平) = 南側に突きだした曲輪。原与左衛門が大将を務めたので「与左衛門平」ともいう。眺望がすばらしく遠州灘が見通せる。ここで一息。
- ⑦主郭、御前曲輪下を通りぬける。ここもま上からの横矢が強烈だ。
- ⑧御前曲輪=本丸の南東、本丸前に位置することからついた名前だが、本来2の丸と称すべきだろう。大河内正局が幽閉されたとされる洞窟、昭和戦後の模擬天守礎石がある。
- ⑨本宮=高天神社の元の鎮座地。江戸中期に現在地に遷宮された。
- ⑩本丸=中心となる曲輪だが規模は小さい。土塁、帯曲輪が残る。ここからの景色もすばらしい。

(史跡看板) 元亀2年3月、武田信玄来攻に備えて城主小笠原長忠2千騎をもって籠城、本丸には軍監大河内政局、武者奉公渥美勝吉以下500騎と遊軍170騎が詰めた。天正2年5月武田勝頼当地包圍猛攻、6月28日激戦、7月2日休戦、9日開城、城主長忠、武田方に降り、城兵東西に分散し退去、武田方武將横田尹松城番として1000騎を率いて入城した。天正7年8月城兵交代、武田方猛將岡部丹後守直幸1000騎を率いて入城した。天正9年3月徳川家康来攻、包圍10か月、城内飢えに瀕し22日夜半大将岡部直幸、軍監江馬直盛以下残兵800、二手に分かれて城外に総突し激闘全滅した。23日家康入城検視、武者奉行孕石元泰誅せられた。城郭消滅廃城となる

- ⑪やや下ると東峯と西峯の分岐点に出る。大きな「高天神城説明看板」、からめ手口までもう一息。
- ⑫両側は急ガケ、尾根道をいくつか掘り切って防御を固める。
- ⑬井戸曲輪、かな井戸
- ⑭正面鳥居、石段から先は西峯。神社は西の丸だが石段前でUターン。  
高天神社=城中守護の神社。およそ290年前に本丸から移築。神社裏に勝頼が築いた掘り切り、その先、堂の尾曲輪、せいろ曲輪と続く。今回はからめ手口に降りる。
- ⑮三日月井戸=岩山の礫層を染み出した雨水が三日月型に溜まった井戸。  
(史跡看板) 天正2年7月より籠城した武田勢は飲料水に恵まれるようにと水乞い祈願をこめて井戸を造った。今もごくわずかながら岩壁から染み出る垂水が絶えることはない
- ⑯石階段を降りる。およそ200段。けがのないようゆっくり降りる。
- ⑰からめ手門=(史跡看板) 元亀から天正2年にかけて渡辺金太夫照が大将として城兵210余騎を率いて守備した所である
- ⑱最後の見学地を終えて、一路出発点の東京・田町をめざす。

以上



「史跡高天神城跡保存管理計画策定報告書」より





日本で初めて木造天守閣を復元

**掛川城天守閣**

大名の暮らしを偲ばせる城郭御殿

**掛川城御殿**

## 掛川城の歴史

戦国武将たちの覇権争いの中で

掛川城より東に500mほどのところにあった掛川古城は、戦国時代の明応6(1497)年から文亀元(1501)年の間に、駿河の守護大名今川氏が遠江支配の拠点として重臣朝比奈茶麩に築かせたといわれています。

その後、遠江における今川氏の勢力拡大に伴い、掛川古城では手狭となり、永正9(1512)年から10(1513)年頃に現在の地に掛川城が築かれました。

永禄3(1560)年桶狭間の戦いで今川義元が織田信長に討たれると、永禄11(1568)年義元の子氏真は甲斐の武田氏に駿河を追われ、掛川城に立て籠もりました。翌年、徳川家康は、掛川城を攻め長期にわたる攻防の末、和睦により開城させました。家康領有後、重臣石川家成が入城し、武田氏侵攻に対する防御の拠点となりました。

天正18(1590)年全国平定を達成した豊臣秀吉は、徳川家康を関東へ移すと、家康の旧領地に秀吉配下の大名を配置し、掛川城には山内一豊が入りました。一豊は城の拡張や城下の整備を行うとともに、掛川城に初めて天守閣をつくりました。



**石落とし** ■ 天守台の張り出し部に設けられ、石を落としたり、櫓を突き出したりして、石垣を登ってくる敵を攻撃する施設。



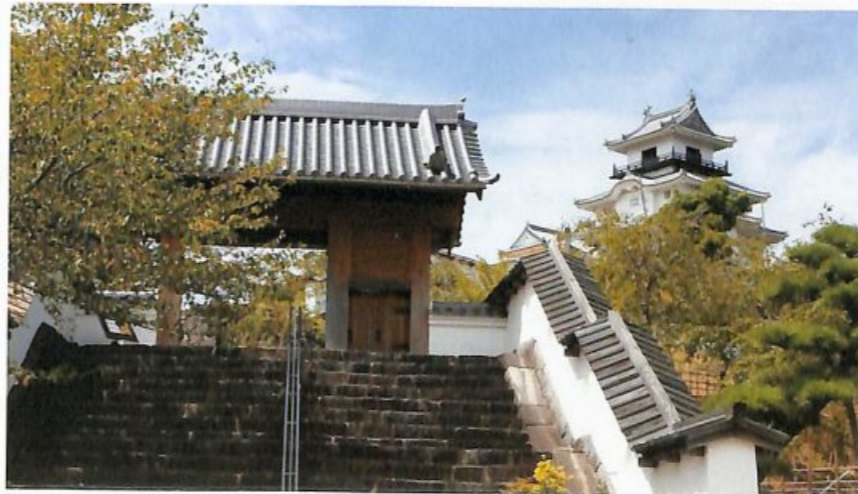
**霧噴き井戸** ■ 永禄11(1568)年から12(1569)年徳川家康は、今川氏真が立て籠もる掛川城を攻めました。この時、井戸から立ち込めた霧が城を包み、家康軍の攻撃から城を守ったという伝説があります。

### 「東海の名城」を揺るがした大地震

江戸時代の掛川城は、東西約1,400m、南北約600mに及び、徳川家康の異父弟の松平定勝や子、江戸城を築いた太田道灌の子孫太田氏など譜代大名の居城として栄えました。

貴族的な外観をもつ天守閣の美しさは「東海の名城」と謳われました。しかし、嘉永7(安政元、1854)年安政の東海大地震により天守閣など大半が損壊し、御殿、太鼓櫓、露の門などの一部を除き、再建されることなく明治維新を迎え、明治2(1869)年廃城となりました。

その後、御殿は様々に使用されながら残りましたが、天守台や本丸の跡など一帯は公園とされてきました。掛川市民の熱意と努力が実を結び、天守閣は平成6年に140年ぶりに木造で再建され、ふたたび美しい姿を現しました。





# 掛川城天守閣



見性院肖像画



山内一豊肖像画「(財)土佐山内家宝物資料館所蔵」

堀巾 45m

## 掛川城天守閣の特徴

掛川城天守閣は、外観3層、内部4階から成ります。6間×5間(約12m×10m)の天守閣本体は、決して大きなものではありませんが、東西に張り出し部を設けたり、入口に付櫓を設けたりして外観を大きく複雑に見せています。1階、2階に比べ4階の望楼部が極端に小さいのは、殿舎の上に物見のための望楼を載せた出現期の天守閣のなごりといえます。白漆喰塗り籠めの真白な外容は、京都聚楽第の建物に、黒塗りの廻縁・高欄は大坂城天守閣にならったと考えられます。

このしろ

### ■概要

天守 瓦葺、3層、内部4階(地上2階、塔屋2階)  
外部白漆喰塗籠、4階出入口引分け戸と廻縁・高欄は黒塗。  
内部壁嵌板、4階は貼付壁、格天井  
棟高石垣上端より53.4尺(16.18m)

付櫓 瓦葺、1層1階、外部白漆喰塗籠、内部壁嵌板、一部漆喰真壁  
棟高石垣上端より18.75尺(5.68m)

総床面積 92.25坪(304.96㎡)

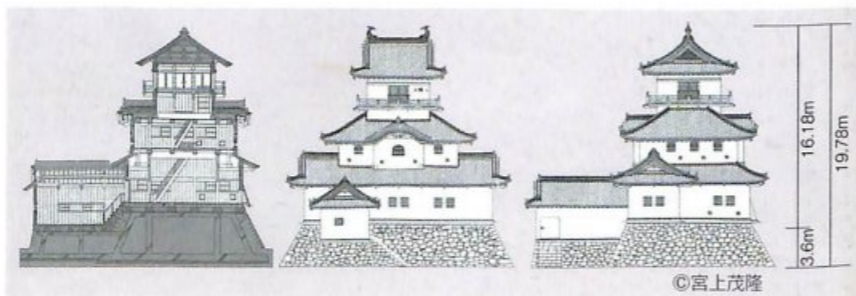
江戸日本了香



狭間 城郭内の建物や堀に設けられた穴で、内側から鉄砲や弓矢で攻撃するための施設。



軒唐破風と火燈窓 破風とは、軒の三角形部分をさし、掛川城天守閣に用いられているものは寺社建築に起源をもち、唐破風と呼ばれます。火燈窓は、鎌倉時代以降に禅宗寺院の建築に用いられた窓の型式。ともに城郭の装飾として用いられるようになりました。



©宮上茂隆

## ■掛川への交通のご案内

新幹線での所要時間

大阪	約2時間20分	JR掛川	約1時間45分	東京
名古屋	約1時間		約15分	静岡
浜松	約13分			

東名高速道路での所要時間(約80km走行での時間)

大阪	名神・東名高速道路 約4時間	掛川I.C.	東名高速道路 約2時間40分	東京
名古屋	東名高速 約1時間30分		東名高速 約50分	富士I.C.
浜松I.C.	東名高速 約16分		東名高速 約35分	静岡I.C.

大手門駐車場・大型車6台・普通車201台

## ■掛川城へのご案内(掛川駅から徒歩7分)



## ■入館のご案内

■開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は4時30分まで)  
年中無休

### ■入館料

区分	個人	団体 (20名以上1人につき)
一般	410円	320円
小・中学生	150円	120円

上記料金で天守閣、御殿の2カ所へ入館できます。

## ■掛川城公園管理事務所

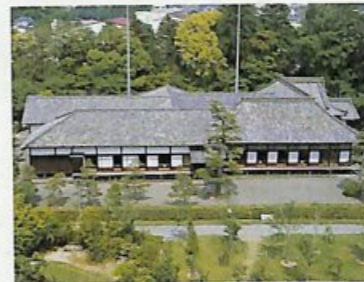
〒436-0079 静岡県掛川市掛川1138-24  
TEL (0537) 22-1146 FAX (0537) 23-1099



※このパンフレットは再生紙を使用しています。



# 掛川城御殿



掛川城二の丸御殿内部(創建当時)



■概要  
木造瓦葺平屋  
外部/下見板張り  
漆喰真壁  
内部/諸役所中塗  
御書院黄色壁塗  
小書院白漆喰塗  
総床面積/947㎡(287坪)  
創建当時1,091㎡(330坪)



御書院上の間 床の間と脇 ■ 御書院は城主の対面所で、上の間はその主室にあたる。框を入れ畳を敷いた床の間と、脇には違い棚が設けられている。右手には付書院を略した障子窓がある。



※印は現存しません

©日本の城(西ヶ谷恭弘・香川元太郎)理工学社

## 掛川城御殿の歴史

### 現存する数少ない城郭御殿

御殿は、儀式・公式対面などの藩の公的式典の場、藩主の公邸、藩内の政務をつかさどる役所という3つの機能を合わせた施設です。掛川城御殿は、二の丸に建てられた江戸時代後期の建物で、現存する城郭御殿としては、京都二条城など全国でも4カ所しかない貴重な建築物です。

書院造と呼ばれる建築様式で、畳を敷きつめた多くの部屋が連なり、各部屋は襖によって仕切られています。当初は、本丸にも御殿がつくられましたが、老朽化したり災害にあって、二の丸に移りました。

嘉永7(安政元、1854)年、安政の東海大地震で御殿が倒壊したため、時の城主太田

資功によって安政2(1855)年から文久元(1861)年にかけて再建されたのが現在の御殿で、明治元(1868)年までの間、掛川藩で使われました。

駿河遠江など70万石の大名として徳川亀之助(家達)が江戸から駿府に移ってくると掛川にも旧幕臣が移り住み、御殿は勤番所と学問所に使用されました。

廃藩置県とともに掛川宿に無償で下付されて聚学所となり、その後も、女学校、掛川町役場、掛川市役所、農協、消防署などに使用されてきました。

その後、江戸時代の藩の政治や大名の生活が偲ばれる貴重な建物として、昭和47(1972)年から昭和50(1975)年まで保存修理が実施され、昭和55(1980)年1月26日、国の重要文化財に指定されました。

## 掛川城御殿の構造

掛川城御殿は、7棟よりなる書院造で、部屋はそれぞれの用途に応じ約20部屋に分かれています。

最も重要な対面儀式が行われる書院棟は、主室の御書院上の間と、謁見者の控える次の間・三の間から成ります。藩主の公邸の小書院棟は、藩主の執務室である小書院と、藩主の居間として使われた長回炉裏の間から成ります。東側は藩政をつかさどる諸役所の建物で、目付・奉行などの役職の部屋、警護の詰所、帳簿付けの膳方、書類の倉庫である御文証などがあります。小書院棟の北側には、勝手台所がありましたが、明治時代に撤去されてしまいました。

江戸時代には身分によって入口が異なり、藩主や家老は式台玄関から、その他の武士は玄関東側から、足鞋は北側の土間から入りました。



玄関屋根の起り破風と蕪懸魚 ■ 破風とは、軒の三角形部分をさし、破風板が上方に凸形に反ったものを起り破風という。棟木の端を隠す飾りが蕪懸魚で、掛川城御殿のものは蕪懸魚と呼ばれる。

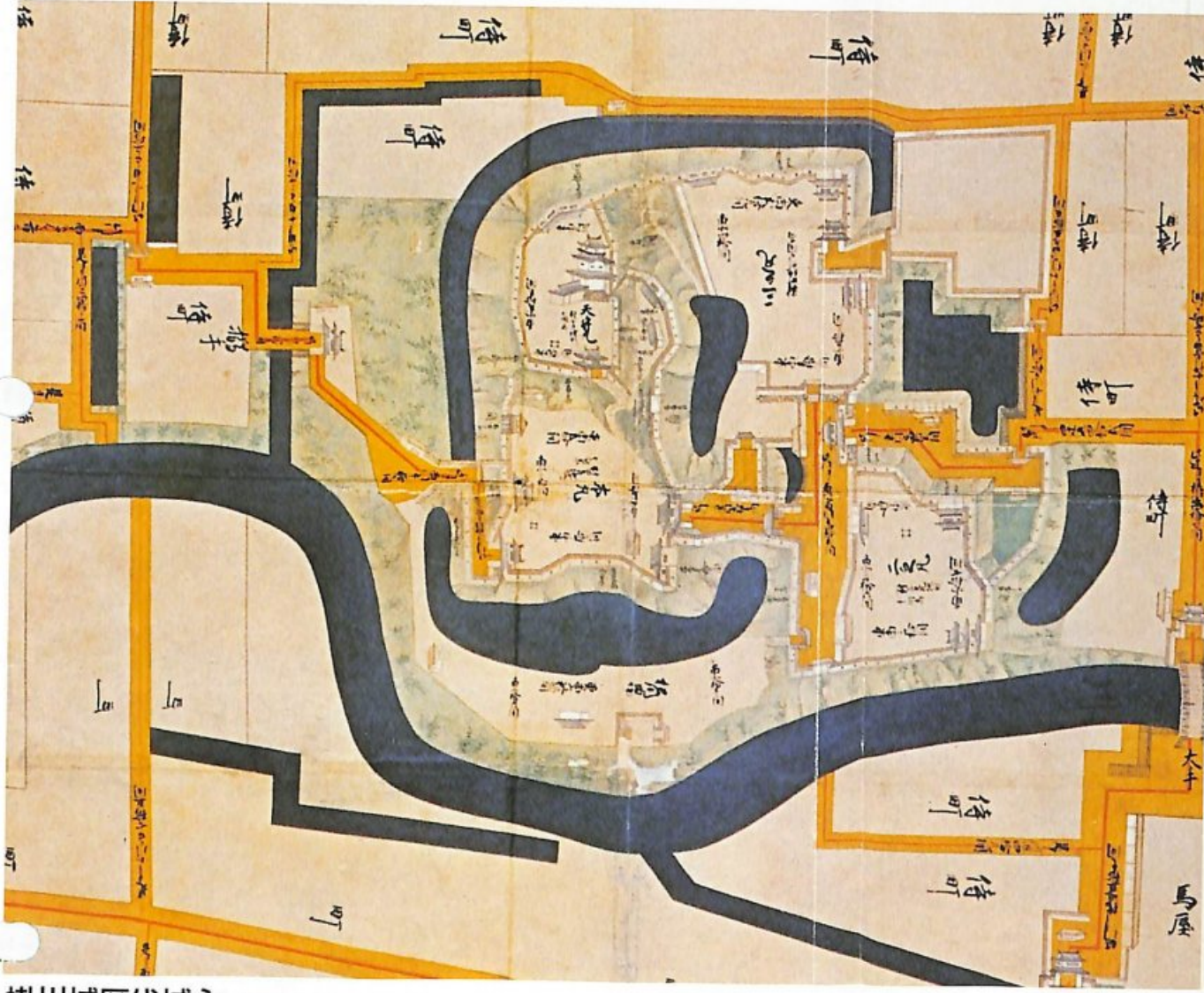


長回炉裏の間・天井 ■ 太田家正紋の桔梗紋と替紋の鶴矢紋



# 正保城絵図と掛川城

懸念  
モテアソク  
懸念



掛川城の整備において、発掘調査などとともに重要な資料とされたのが正保城絵図です。

正保元(1644)年、徳川幕府は全国の城郭の状況を把握するため、諸大名に城絵図の提出を命じました。これが正保城絵図と呼ばれるもので、63城の絵図が残されています。

正保城絵図に描かれた掛川城は、中央の天守丸と本丸の周囲を三日月堀・十露盤堀・松尾池などの堀が囲み、堀の外側に二之丸・三之丸などの郭が配置されています。これらの郭を堀が囲み、堀の外側に家臣の屋敷が配置され、またその外側を堀が囲んでいて、中心部が厳重に守られている様子がわかります。

正保城絵図に描かれた登城路や三日月堀、十露盤堀などが発掘調査で明らかになり、整備に活かされました。

城の南側に外堀の役目を担う逆川が流れ、逆川の南側には総堀に囲まれた城下町が広がっています。城下町の中央を江戸と京都を結ぶ東海道が東西に通っています。

譜代大名が城主を務め、堅固な造りで東海道に面する掛川城は、将軍の上洛などの時の宿泊所としての役割も果たしました。

徳川家康は、慶長19(1614)年の大坂冬の陣に際し、駿府を出発して掛川城に泊まっています。第2代将軍秀忠は、元和3(1617)年の上洛の時など掛川城に泊まっています。第3代将軍家光は、寛永11(1634)年の上洛の時に掛川城に泊まっています。第14代将軍家茂は、慶応元(1865)年の第二次長州征討に向かう途中に掛川城で宿泊しています。

## 掛川城歴代城主

〔寛政重修諸家譜〕により作成

●城主名	●禄高	●入城年	●西暦	●在城年数	●摘要
朝比奈泰康(やすひろ)		文明初年			今川義忠の命により築城
同 泰能(やすよし)		永正10年	1513	45	
同 泰朝(やすとも)		弘治3年	1557	12	今川氏真と共に小田原へ転進
石川家成(いえなり)		永禄12年	1569	11	
同 康通(やすみち)		天正8年	1580	10	
山内一豊(かつとよ)	5万石	天正18年	1590	10	関ヶ原役の恩賞により土佐高知へ転封
松平(久松) 定勝(さだかつ)	3万石	慶長6年	1601	6	家康の異父弟
同 定行(さだゆき)	3万石	慶長12年	1607	10	
安藤直次(なおつく)	2.8万石	元和3年	1617	2	紀伊徳川頼宣付家老
松平(久松) 定綱(さだつな)	3万石	元和5年	1619	4	
中野重吉		元和9年	1623	2	中泉代官、預り
朝倉宣正(のぶまさ)	2.6万石	寛永2年	1625	6	駿河徳川忠長付家老
高室昌重		寛永9年	1632	1	中泉代官、預り
青山幸成(よしなり、ゆきなり)	2.6万石	寛永10年	1633	2	
松平(桜井) 忠重(ただしげ)	4万石	寛永12年	1635	4	
同 忠俱(ただとも)	4万石	寛永16年	1639	0	幼少につき即日転封
本多忠義(ただよし)	7万石	寛永16年	1639	5	
松平(藤井) 忠晴(ただはる)	3万石	正保元年	1644	4	

●城主名	●禄高	●入城年	●西暦	●在城年数	●摘要
北条氏重(うじしげ)	3万石	慶安元年	1648	10	
宮崎道次		万治元年	1658		川井代官、預り
本多利長					横須賀城主、城番
井伊直好(なおよし)	3.5万石	万治2年	1659	13	
同 直武(なおたけ)	3.5万石	寛文12年	1672	22	
同 直朝(なおとも)	3.5万石	元禄7年	1694	11	発狂、養子直矩襲封
同 直矩(なおのり)		宝永2年	1705	0	
松平(桜井) 忠義(ただたか)	4万石	宝永3年	1706	5	
小笠原長康(ながひろ)	6万石	正徳元年	1711	28	
同 長庸(ながつね)	6万石	元文4年	1739	5	
同 長恭(ながゆき)	6万石	延享元年	1744	2	幼少及び領政不備により転封
太田資俊(すけとし)	5万石	延享3年	1746	17	寺社奉行
同 資愛(すけちか)	5万石	宝歴13年	1763	42	寺社奉行、若年寄、京都所司代、老中
同 資順(すけのぶ)	5万石	文化2年	1805	3	
同 資言(すけとき)	5万石	文化5年	1808	2	
同 資始(すけもと)	5万石	文化7年	1810	31	養子、堀田正毅3男、老中
同 資功(すけかつ)	5万石	天保12年	1841	21	寺社奉行
同 資美(すけよし)	5万石	文久2年	1862	6	明治2年 上総国芝山に移る



# 横須賀城跡



横須賀城を拠点とした徳川家康が  
「難攻不落の名城」と呼ばれた  
高天神城に攻めこんだ  
遠州制覇に夢をかけた  
戦いのあと

# 高天神城跡



龍眼寺  
第13代横須賀城主・西尾忠成から第19代城主・忠受まで西尾家7代の墓塔があります。



平叟寺  
1581年(天正9年)初代横須賀城主・大須賀康高が建立。山門は、二の丸不開門(あかずのもん)を移築したものです。



本源寺  
第10代横須賀城主・井上正就とその父親の墓塔があります。山門は江戸中期頃の形式を残す貴重な建造物です。



- 交通のご案内
- 東名高速で……東京から掛川ICまで車で約2時間40分  
名古屋から掛川ICまで車で約1時間30分
  - 東海道新幹線で……東京駅から掛川駅まで約1時間55分  
名古屋から掛川駅まで約1時間
  - ◆高天神城跡 ●東名掛川ICから車で約15分 ●掛川駅からバスで約24分
  - ◆横須賀城跡 ●東名掛川ICから車で約30分 ●袋井駅からバスで約30分

お問い合わせ

掛川市役所商業観光課

〒436-8650 静岡県掛川市長谷1-1-1 TEL.(0537)21-1149

<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp>

高天神城観光ボランティアガイド受付 要予約 TEL.(0537)24-8711



寢泉寺  
横須賀城の初代城主・大須賀康高が亡き妻の菩提を弔うために建立したと伝えられています。朱塗りの2階造りの楼門は、県指定文化財です。



三熊野神社  
文武天皇の皇后に由来すると伝わる荘厳な佇まいの神社。数百年後に横須賀城が築かれると、歴代城主をはじめとする武士、町人などから深く信仰されました。



町番所  
元は横須賀城の東側にあった建物で、藩の役人が詰めていて、城に出入りする人々を監視していました。



高天神城ハイキングマップ



**① 高天神社**  
高天神社は、城が廃城となるまで城中守護の神社でした。約290年前に御前曲輪跡から現在の場所に移されました。



**② 堀切**  
敵の侵入を防ぐための堀切で、幅約9m、深さ約6mあります。掘底から橋脚跡と考えられる穴が発見されていて、木の橋が架けられていたと考えられます。



**③ かな井戸**  
ここに深井戸を掘って、籠城中の命を繋ぎました。天正2年の勝る武田勢の猛進を必死の防戦に努めた場所と伝わります。



**④ 馬場平**  
かつては城の南側を見張るための番屋があったと考えられます。現在は展望台があり、遠州灘が一望できる絶景の場所です。



**⑤ 搦手門**  
高天神城の北側の入口です。元龜2年の信玄の高天神城攻めの際には250人が守備したところと伝わります。



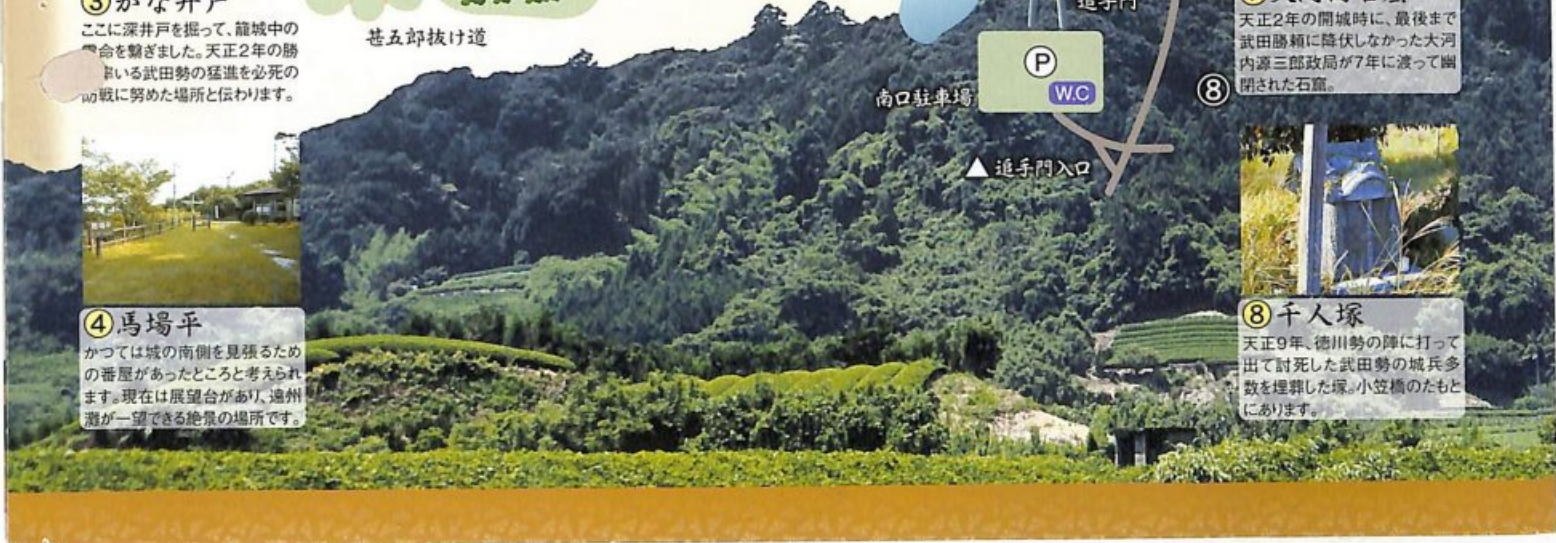
**⑥ 三日月井戸**  
三日月状の井戸で、城の守りには欠かせない貴重な飲料水でした。



**⑦ 大河内石窟**  
天正2年の開城時に、最後まで武田勝頼に降伏しなかった大河内源三郎政局が7年に渡って固守された石窟。



**⑧ 千人塚**  
天正9年、徳川勢の陣に打って出て討死した武田勢の城兵多数を埋葬した塚。小笠橋のたもとにあります。





「高天神城を制するものは

遠州を制する」と謳われた要衝の城

国指定史跡

# 高天神城跡

「難攻不落の名城」と呼ばれた戦国のロマンを語る。

高天神城は、小笠山から南東にのびる尾根の先端、標高二三二mの鶴翁山を中心に造られた山城です。東側の田園地帯から南側の遠州灘まで見渡すことができ、小笠山の北を通る東海道を牽制できる立地条件にある重要な城であったため、徳川と武田が争奪戦を繰り広げました。

眼下には、下小笠川などの中小の河川が流れ、天然の堀を成し、尾根は三方が断崖絶壁、一方が尾根続きという天然の要害であり、「難攻不落の名城」と呼ばれていました。高天神城の築城は、室町時代、今川氏が守護大名から戦国大名に成長する過程で築かれたとする説が有力であると言われています。



高天神城当時の想像図



毎年3月に行なわれる例大祭は、多くの見物客で賑わいます。

## 高天神社例大祭

高天神社はずつと高天神城を守護する神社でした。この祭りは毎年三月最終の日曜日に神様が里帰りされる行事として行なわれています。当日は神楽の奉納や神輿渡御行列などの神事が厳かに執り行なわれ、桜の見頃と重なることから毎年多くの見物人でにぎわいます。

今川氏の滅亡後、徳川家康の持ち城となり、小笠原長忠が引き続き城主となりました。一五七二年元亀二年、武田信玄では攻め落とせず、二五七四年(天正三年)、信玄の息子・勝頼が二万の大軍で攻め、ついに開城させました。しかし、翌天正三年の「長篠の合戦」で、織田・徳川連合軍に大敗した武田勝頼は、その後、衰退。横須賀城を拠点とした家康が高天神城の奪還に成功しました。



武田勝頼 (法政寺蔵)

## 高天神城奪還の為に築かれた横須賀城跡



徳川家康、武田信玄・勝頼が攻防を繰り広げた高天神城跡



遠き想いを夢みて築き上げ

珍しい平山城

国指定史跡

# 横須賀城跡

遠州制覇に夢をかけた  
徳川家康と武田信玄・勝頼。

横須賀城は、山城と平城を合わせ持った、平山城と呼ばれ、近世の政治の場としての面もあることから、二重の城郭要素を持つていると言われています。

横須賀城を築き上げたのは、徳川勢が守る高天神城への武田氏の襲来でした。

一五七二年(元亀二年)武田信玄は家康の家臣となつた小笠原長忠が守る高天神城を攻撃しましたが、攻めきることができず兵を引き三河へ進軍していきました。これにより信玄も攻め落とせなかつた難攻不落の城と言われるようになりました。しかしこの戦いから三年後、父・信玄の遺志を受け継いだ勝頼が高天神城を攻め、開城させました。一方、高天神城を失つた家康は、一五七八年(天正六年)高天神城を奪還すべく、大須賀康高に命じて、横須賀城を築かせました。家康は、横須賀城を拠点とし、一五八一年(天正九年)、勝頼に奪われた高天神城を攻め、落城させました。この合戦で、初代城主となつた大須賀康高を初め、その配下の者も大いに武功を挙げ、「横須賀党」と呼ばれたそうです。



西の丸西側斜面の石段と門跡検出状況

一五八二年、武田氏が滅び、織田信長が本能寺の変で命を落とすと、豊臣秀吉の手に天下が移る形勢となりました。家康は、秀吉と和睦して、一五八六年(天正十四年)浜松から駿府に居城を移し、一五九〇年(天正十八年)に関東に移り、天下人へと歩んでいきます。

## 横須賀城の歴史

横須賀城は、築城者大須賀康高が初代城主となりました。一五九〇年(天正十八年)の家康の関東移封に伴い、翌年、二代城主の大須賀忠政は上総国に移され、豊臣氏の家臣である渡瀬氏、有馬氏が城主になりました。  
一六〇一年(慶長六年)、松平(大須賀)忠政が再び城主になり、以後譜代大名の居城になりました。江戸中期から一八六八年(明治元年)まで西尾氏八代の支配が続きました。

## 略年表

1513年 (永正10年)	これより以前、今川氏家臣が城に入る。
1568年 (永禄11年)	徳川家康、今川氏真の領国遠江国に侵攻し、高天神城を属城とする。
1571年 (元亀2年)	武田信玄、塩坂に布陣し、内藤昌豊が高天神城を攻めさせるが失敗に終わる。
1572年 (元亀3年)	徳川家康、三方ヶ原の戦いで武田信玄に大敗する。
1573年 (天正元年)	信玄没す。
1574年 (天正2年)	武田勝頼、小笠原長忠が守る高天神城を開城させる。
1575年 (天正3年)	勝頼、長篠の戦いで織田信長・徳川家康連合軍に大敗する。
1578年 (天正6年)	家康、高天神城奪還の拠点として、横須賀城を築く。
1581年 (天正9年)	家康、高天神城を落城させ、廃城にする。
1591年 (天正19年)	豊臣氏の家来、渡瀬氏が横須賀城主になる。
1682年 (天和2年)	西尾忠成、信濃小諸城主から横須賀城主となり、以後西尾氏の支配となる。
1854年 (安政元年)	安政東海地震により、横須賀城と城下町が大被害を受け、天守閣も傾く。
1868年 (明治元年)	西尾氏は千葉に移され、横須賀藩の領地は静岡に移された徳川家の支配となる。
1873年 (明治6年)	横須賀城の建物など、解体され払い下げとなる。



徳川家康  
〔三河武士のやかた  
家康館〕蔵



撰要寺には、横須賀城の初代と2代目城主大須賀氏の墓があります。